10/4/2018

＊キリスト教学講読Ｂ＊＊＊＊

S. Ashina

＜オリエンテーション＞

Ａ．テーマ：キリスト教思想の基本文献を読む

本講読は、キリスト教思想における基礎文献をじっくり読むことを通して、キリスト教思想研究とその方法について学ぶことを目的としている。前期は、キリスト教思想の古典というべきテキストを日本語訳で講読するが、その際に、まとまった分量のテキストから問題（テーマ）を取り出し、必要な調査（文献レベルでの）と分析が行われる。

また、この講読は、キリスト教学専修に所属の学部生の卒論演習を兼ねており、研究発表の機会を設けることが予定されている。

今年度は、H. Richard Niebuhr, *The Responsible Self. An Essay in Christian Moral Philosophy*, Harper & Row, 1963. に所収の諸論文を読む。

・キリスト教思想をその古典から学ぶことによって、今後キリスト教思想のさまざまな研究テーマに取り組むための基礎力をつけることができる。
・まとまった分量のテキストから自分で問題を見つけ出し、さらにそれに取り組むための方法論を身につけることができる。

Ｂ．テキスト

H. Richard Niebuhr, *The Responsible Self. An Essay in Christian Moral Philosophy*, Harper & Row, 1963.

Ｃ．成績などについて

・平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）
・使用するテキストについては、コピーを配布する。
・参考文献：授業中に紹介する。
・受講生には、キリスト教思想に対する関心と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（火３・水５）を利用するか、メール（アドレスは、Kulasis にて確認）で行うことができる。

Ｄ．授業（予習＋出席・発表＋復習）の進め方

１．演習参加者の役割

(1)授業前：読み・訳す・分析する　→　問題点・補足事項。
(2)授業での発表：順番に読み・訳す。質疑。討論。
(3)授業後：残った問題を検討する。

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で（これらを記載したレジメを作成すること）、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。

２．10/11：テキストの配布、担当の決定、ニーバーの思想解説。

10/18 ～：テキストの最初から、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。
10/4, 11。18, 25, 11/1, 8, 15, 29, 12/6, 13, 20, 27。 1/10, 17

＜Ｈ・Ｒ・ニーバー(1894-1962)＞（『岩波キリスト教辞典』から、金子啓一）
・北米の神学者、Ｒ・ニーバーの弟、Ｒ・Ｒ・ニーバーの父。
・トレルチ＋バルト
・イェール大学神学部で 1924 年、博士号取得。
・31 年から、イェール大学でキリスト教倫理を担当。
・『アメリカにおける神の国』(37)、『啓示の意味』(41)、『キリストと文化』(51) など。
・「歴史に顕現する超越神と出会う人間が、終末論的共同体として教会を形成しつつ、歴史と文化を変革する応答的実存であることを強調する組織神学、応答と責任の倫理学を展開」
・Ｇ・Ｄ・カウフマンら多数の神学者が輩出。

＜導入講義１＞
・芦名定道「Ｈ・リチャード・ニーバーと信仰論の射程」（大阪市立大学文学部紀要『人文研究』第 45 巻第 3 分冊、1993 年、107-126 頁）
コピー配布